

童の実態を的確につかみ、授業を通して個々の児童がどのように変容していったかを把握していくならば、一人一人がよりよく生きていこうとする自己変革に対し具体的に支援していくことができると考えている。

そこで、授業前と授業後の児童の変容をつかむために、価値と関連する事前と事後の教育活動を教科・教科外の両面から明確にし、そこでの児童の実態を把握するようにしている。また、教師からの一方的な観察では児童の変容をすべてとらえることは難しい。そこで、児童自身が自己評価することでより多面的に変容をとらえることができると考え、道徳ノートにも事前・事後の自分の考えや行動を記録するようにしている。

実践例 3年 友達となかよく(2-③友情・信頼・助け合い)

		各 教 科		教 科 外	
事 前	算 数 4 月	長さ 2人で協力して校舎の長さを調べる ことができる	学級活動 4 月	学級のめあて 1年間のめあてをみんな 話し合っ決めて決めることができる	
	社 会 4~6月	わたしたちのくらしとまち 計画や見学を 友達と協力しながらすることができる	学校行事 5 月	春の一日遠足 友達と協力しながら大浪の 池登山ができる	
		↓		↓	
価値と照らし合わせた児童把握					
授 業	6月実施	主題名 友達となかよく(2-③友情・信頼・助け合い) (資料名 明るくなった友達「学研 みんなのどうとく」)			
事 後	体 育 11 月	ラインサッカー 友達と協力して練習や ゲームができる	創 意 7 月	人豆植え みんなと協力して、作業するこ とのよさに気付くことができる	
	国 語 12 月	友達のこと 友達のことを取材する中で、 友達のよさを見つけることができる	学校行事 2 月	学習発表会 友達と協力して発表会で企画・ 発表することができる	
		↓		↓	
価値に対する児童の変容の把握と個への支援					